

道徳

児童が自分自身と向き合い、自分の考えの深まりや変容に気付く道徳授業の実践 ～心の動きが分かる「心のメーター」の活用と役割演技を通して～

三条市立一ノ木戸小学校
鈴木 まや（平成26年度）

1 主張

本学級では、相手のよさを認め、伝え合う活動を継続して行っている。しかし、自分と異なる考え方や少数の意見などを受け止め、自分の考えを深めるところに弱さが見られる。自分自身に向き合い、様々な問題場面を多面的・多角的に考えることで、多様な意見を受け入れ、自分の考えを深めていくことが必要であると考えた。

そこで、「心のメーター」を授業の導入と終末で取り入れ、自分の立場や考え方を可視化する。そして、役割演技を中心とした話し合い活動を通して、問題場面について実感的に捉えさせたり、多面的・多角的に考えさせたりする。そうすることで、児童が自分自身に向き合い、自分の考えを深めたり、自分の考えの変容に気付いたりすることができるように考えた。授業を通して、自分自身をしっかりと見つめたり、多様な友達の意見を受け入れたりすることを通して、実生活においても、よりよい人間関係を築こうとする意欲を高めていきたい。

2 実践の概要

(1) 「心のメーター」と「役割演技」を活用する指導計画（資料1）

(2) 手立て

手立て① 自分の考えの変容を自覚する「心のメーター」の活用

自分自身と向き合い、自分の立場や考え方を明確にするバロメーターを「心のメーター」とし、クロームブックで授業前と授業後の「心のメーター」を記録に残す。自らの心の動きを可視化し、比較することで、自分の考えの深まりや変容に気付くことができるように考えた。

手立て② 互いの考えを実感的に理解するための「役割演技」の活用

役割演技で、演じた側と見ていた側が感じたことや考えたことを共有し交流することが、実感的な理解を深め、物事の見方を一面的な見方から多面的・多角的な見方にすることに繋がると考える。

(3) 授業の実際

実践1 C-(12)公正、公平、社会正義 第3学年 教材名「なおとからのしつもん」 光村図書

導入で、「人によって態度を変えてはいけない理由を言えるか」と問い、「心のメーター」で自分の考えを明確にした。(資料2) 学級の約80%の児童がはっきりと言えない状況であったことから、この理由を考えるために資料「なおとからのしつもん」を提示した。〈なおと〉は席替えのとき、隣が仲良しの子だと喜び、あまり親しくない子だと嫌がる。休み時間には、優しくしてくれる子は仲間に入れるが、嫌なことをされた子は仲間に入れない。〈ぼく〉が、人によって態度を変えるのはだめだと言うと、〈なおと〉からなぜだめなのかと質問された、という話である。

人によって態度を変える〈なおと〉について、「態度を変えられた人はどんな気持ちか」と問うと、「悲

しい気持ち」「ショックを受ける」「ひどいと感じる」という意見が出た。

資料中の問題場面「以前ドッジボールをしたときくなおと>にボールを当てたくゆかこ>が、別の日にドッジボールをするとき「仲間に入れて」と来た。「だめだよ」ではなく何と答えるか」について、役割演技で考えさせることにした。

抽出児Aは、授業の最初は「人によって態度を変えてはいけない理由」は「言えない」寄りであった。まずは、ペアで役割演技をさせ、その後、何人かの児童が、全体の前で役割演技を行った。抽出児Aがくなおと>役になった。

役割演技以前ドッジボールをしたときくなおと>にボールを当てたくゆかこ>が、別の日にドッジボールをするとき「仲間に入れて」と来た。「だめだよ」ではなく何と答えるか

ゆかこ : 仲間に入れて。

なおと (A児) : 入っていいよ。じゃあ、一緒のチームになってくれる？

ゆかこ : うれしい。

A児は、「くゆかこ>が同じチームになったら、くなおと>にボールを当てないからこのように言う」と答えた。前にくゆかこ>にボールを当てられて嫌な思いをしたことから、自分がくゆかこ>にボールを当てられず、嫌な思いをせずに済む方法でくゆかこ>を仲間に入れることを考えた。自分本位のように思えるが、「だめ」と言ってくゆかこ>を傷つけないように考えた結果であると言える。

役割演技を見ていた児童は、だめと言わずに仲間に入れる演技は、「うれしい気持ちになる」「みんなでやるのが楽しい」「みんなで遊ぶと楽しい」と、肯定的に発言してきた。

心のメーターではA児は、人によって態度を変えてはいけない理由がはっきり言えるに変わり、「『ひどい』という意見を聞いて心のメーターが動いた。分かったことは、人によって態度を変えると友達がなくなる。」と振り返りに書いていた。他の児童の振り返りでは、「人によって態度を変えないと、みんなで楽しく遊べる。人によって態度を変えるとみんな嫌な気持ちになるけど、態度を変えないとみんながうれしい気持ちになる」との記述が見られ、「相手が嫌な気持ちになるだけでなく、みんなが仲良く遊べなくなる」ことに気付くことができた。授業を通して65%の児童が、自分の変容に気付くことができた。(資料3)

しかし、「心のメーター」は、「言えない」「言える」の左右のみのため、最初から「言える」側の立場の児童にとっては、授業後の変容が見えない。はっきりと言える理由が授業を通して増えれば理解がより深まったと言えるだろう。より変容を明確に表すために①メーターに数値を入れる②「言える」「言えない」を横軸に、「理由が増えた」を縦軸にし、言える理由が増えた場合、ネームプレートを上動かすなど、さらなる深まりや変容を可視化できる心のメーターの形も有効なのではないかと考えた。

また、役割演技では、「仲間外れはよくない」という認識があり、「入れて。」と言われたら自然と「いいよ。」と答える児童がほとんどで、多様な考えが出る場面ではなかった。役割演技を行う場面は、多様な意見が出るような場面設定にする必要がある。

実践2 B-(10)相互理解、寛容 第3学年 教材名「水やり係」光村出版

実践1の課題を踏まえ、心のメーターに、縦軸「相手のことを考えているかどうか」を入れ、横軸を「自分の気持ちを伝えられるかどうか」通して、メーターを設定した。

そして、授業の導入で「友達に伝えたいことがあるとき、相手のことを考えて、自分の気持ちを伝えら

れるか」と問い、心のメーターに自分の立場を入力させた。学級では全体の約70%の児童が「自分の気持ちを伝えられない」と考え、また約40%の児童が「相手の気持ちを考えずにいる」と自分自身を見つめてきた。(資料4)

そこで、「自分の考えを伝えるときにはどんなことが大切か」を考えることとし、資料「水やり係」を提示した。〈わたし〉と〈ゆうか〉は水やり係で、1日交代で帰る前に学級園に水をやるが、〈ゆうか〉の当番の翌日、学級園の土が乾いていた。〈わたし〉は〈ふみ〉と〈みつぎ〉に〈ゆうか〉が係の仕事をしていないとこぼす。〈ふみ〉は事情を聞いたかと問い、〈みつぎ〉は理由を聞くよう勧めたという話である。役割演技では、水やり係の〈わたし〉が、同じく水やり係で、仕事をしていないと思われる〈ゆうか〉に何と声を掛けるかという場面を取り上げた。役割演技では〈わたし〉役を抽出児Bが行った。

役割演技水やり係の〈わたし〉が、同じく水やり係で、仕事をしていないと思われる〈ゆうか〉に何と声を掛けるか

わたし (B児) : 最近花壇の土が乾いているみたいなんだけど、どうしたの。

ゆうか : 用事があったんだ。

わたし (B児) : そうなの。理由を知れてうれしい。ありがとう

演技後、〈ゆうか〉役の児童が「決めつけられなくてよかった」と感想を述べた。すると、〈わたし〉役の抽出児Bは「嫌な言葉をかけられると嫌な気持ちになるから、優しい言葉に変えた」と話してきた。自然と相手のことを考えた言葉を選んだ抽出児Bの役割演技は、見ていた児童に優しい印象を与えた。B児は、授業の最初は「自分の気持ちを伝えられないし、相手のことを考えていない」の立場にいて、一番大切にしたいことは「自分の気持ち」通していた。しかし、終末では「相手のことを考えて、自分の気持ちを伝えられる」に変容し、自分の気持ちの伝え方次第で相手の気持ちも変わること気付く姿が見られた。学級全体でも考えに変容が見られ、振り返りに変容したことを書いた児童は全体の82%だった。(資料5)「これからは、相手のことを考えて、なおかつ自分の気持ちを伝えられそうだと、多くの児童に意欲の高まりを見ることができた。

心のメーターを縦軸と横軸のあるものにすることで、より自己を見つめて立場や考えを明らかにすることができた。また、横と縦が合わさった動きで見えるため、より変容を意識しやすくなったと考える。より考えを深めるために、自分の考えが何をきっかけに変容し深まったのか、他者と交流してアウトプットすることで自分の学びの深まりや変容をより明らかにする活動を取り入れたいと考えた。また、役割演技の際、登場人物の気持ちの押さえが不十分だったため、登場人物に共感させること、共感した児童を代表通して選出し、その演技を学級で考えることが大切になってくる。

実践3B-(9)友情、信頼 第4学年 教材名「泣いた赤おに」光村出版

実践2のメーターとは違い、横軸のみで、数値を入れたメーターで実践した。「友達を大切にする」という内容にはさまざまな考え方があり、縦軸で捉えきれないためである。その分、授業の振り返りにおいて、仲間と自由交流させ、自分の学びの変容や深まりに気付かせたいと考えた。(資料6)

まずは、「友達を大切にすることはどういうことか」メーター上に自分の立場を示させた。学級全体通してはメーター上にばらつきがあるが、「どちらかというと言える」という児童が一番多かった。児童は、「友達を大切にすることはどういうことか」について「助け合う」「仲よくする」「優しくする」と考えている子が多かった。そこで、資料「泣いた赤おに」を提示し、「青おには友達を大切にしていると言えます

か」と問うた。すると、児童は、「言えない。赤おにが悲しい思いをしているから。」「赤おにのために自分を犠牲にしたけど、赤おにに寂しい思いをさせている。」などと話し始め、今の状態は赤おにも青おにも幸せではないので、友達を大切にしているとは言えないと考えてきた。そこで、「赤おにと青おにの両方が幸せになるには、このあと赤おにはどうしたらよいか。」について役割演技をして考えることにした。多くの児童が青おにを探して謝りたいと考えた役割演技を、ペアで行った。その後、代表の児童から全体の前で演技してもらった。全体の役割演技では、自分たちの役割演技と比べながら見るように話した。

全体の役割演技 旅に出た青おにを探し、見つけたら謝り、戻ってきてほしいことを伝える。

赤おに：青おに君、僕は本当の友達（青おに）を失くして寂しい。

青おに：でも、ぼくと仲良くしていたら、赤おに君が人間と仲良くできなくなるから、それは嫌だよ。

赤おに：でも、本当の友達は、青おにくんだから…。

青おに：ぼくも本当は（赤おにと離れることになって）寂しかったんだ。

抽出児Aは「自分たちは、赤おにに『戻って来てほしい』と言われたら青おには『じゃあ、戻るよ。』というやり取りをしたが、今の役割演技は、自分たちとは違って、青おにはすぐに旅をやめて戻るとは言わず、『赤おにが人間と仲良くできなくなってしまう』と言っていた。」と赤おにのことを考える青おにに注目した発言をした。学級全体は、どちらかが寂しい思いをしているのは幸せではなく、両方が幸せなとき友達を大切にしているという考え方をしていた。A児は、振り返りでは、「相手を大切にするだけでなく、自分も大事にすると考えが変わった」と記述した。（資料7）全体でも自分の変容に気付いた振り返りを74%の児童が書いていた。

振り返り記述後、心のメーターを動かし、自由交流を行った。自由交流では、自分の振り返りの記述と、授業前後の2つの心のメーターをもとに、相手に伝わるように言葉を付け加えたり言い換えたりしながら、記述だけでは表現しきれないことを、自由交流することができた。A児の心のメーターは大きく動いたわけではないが、最初は「友達を大切にするとはどういうことか」について「心を傷付かせない。友達の嫌がることをしない。」と考えていたが、振り返りでは「相手も自分も大切にすることが大事」と新しい考えが付加され、自分自身を見つめなおすことができたと考える。

3 成果（○）と課題（●）

- 心のメーターは、学習内容に合わせた形で活用できると言える。自分でメーターを動かすことで、自分自身に変容があったのか、見つめ直しをさせることに有効に働いた。
- 自分たちの役割演技と友達の役割演技の比較をすることで、多様な役割演技に触れることができ、問題場面について多面的・多角的に考える一助となった。
- 実践3では、振り返りの記述をし、心のメーターを動かした後に自由交流を試みた。児童は仲のよい友達と交流しがちで、メーターを基にした交流とは言えないものが多かった。今後は、自分の考えが変容するきっかけになった児童との交流を中心に行いたい。また、交流後に振り返りを記述させると、自分の考えがどのように変容したのかが、交流を通してより明確になるのではないかと考える。
- 実践3の役割演技では、全体で役割演技を行ったのが1組のみだったが、赤おにがどうするかはワークシートの記述から多様な行動があった。役割演技やその後の話合いで多様な意見を出させるためには、全体での役割演技を増やし、それぞれを比較しながら話合いを行うなどの方法を試みたい。